

表現教育のオンライン授業に関する先行研究にみられる特徴と課題
— 音楽・身体表現・造形の視点から —

The characteristics and issues in previous research on online classes
in expression education: from the perspective of music expression,
physical expression and art expression

半田 結* 井上 朋子**
永井 夕起子***

(令和3年12月17日受理)

要約

本研究の目的は、表現実技科目におけるオンライン授業についての先行研究から、表現教育でのオンライン授業の実情や課題、オンライン授業の検証方法について整理することである。今回、分析対象となった35件の先行研究を整理した結果、まず各分野や活動内容によって、オンライン授業の実情と課題がそれぞれ異なっていることが明らかとなった。また、検証する際には表現科目ならではの質問項目が求められること、さらに表現教育特有の学びの保証が求められること、またオンラインでの総合的な表現教育に関する研究が今後求められることが示唆された。そして、先行研究により得られた知見を基に、表現科目特有の質問内容を整理・検討し、独自のアンケート設問を示すことができた。

キーワード：オンライン授業、対面授業、表現教育

keywords：Online classes, Offline classes, expression education

I. はじめに——研究の背景と目的

2020年度、新型コロナウイルスは社会のあらゆる面に多大な影響を与えた。教育面では何といてもオンライン授業の導入とっていいだろう。

保育者養成を専らとする本学もまた、2020年度は年間を通して、音楽や身体表現、造形などの実技・演習科目を含むほぼすべての授業で、対面からオンラインへと余儀なくされた。2021年度は、確かな学生の学びを保障するため、4月からは一部の科目を除きほぼすべての授業を対面でスタートさせた。しかし、6月の緊急事態宣言の発出により、都合3回程オンラインでの授業を行うこととなった。

筆者らは新しい教職課程への移行にともなうカリキュラム変更について、これからの時代に求められる新しい表現教育という視点で、一昨年度か

ら検討を重ねてきた¹。このカリキュラム変更と、オンライン授業やICTの活用は、今後の学びの在り方と指導法を考えるうえでは、いずれも重要で活用していかなければならない課題であるとしてとらえている。何よりも、年間を通してオンライン授業を行った昨年度来、対面授業では見えていなかった課題や意識していなかったことについて考えさせられたことが極めて多く、おそらく多くの教員が同様のことを感じていたのではないかと思われる。

ところで、表現に関わる音楽や身体表現、造形などは、実際に身体や道具を用いるため技術や技能を抜きには語れない。それらは、これまで当たり前のこととして対面で行われてきたが、いざオンライン授業で行うとなると、さまざまな工夫や変更、場合によっては発想の転換を求められるこ

(*はんだむすび 保育科教授 美術教育学)

(**いのうえともこ 保育科准教授 音楽教育・ピアノ)

(***ながいゆきこ 保育科准教授 運動心理・身体表現)

ととなった。そのため、先行研究を概観すると、対面で行ってきた内容をいかにオンラインで実現するかという、その実践の方法が焦点となっているものが多く目につく。そこには、学生の学びを保障するために教員が必死に対応してきた現実が表れているといえる。そうした一方で、オンライン授業という新しい方法を手にした今、はたして、表現教育に特有の学びの保障や、学びの深化や進化とは一体どのようなものなのだろうか、という疑問も生じる。

本論では、それらを明らかにするための最初の方法として、表現実技科目におけるオンライン授業の取り組みに関する先行研究を整理し、オンライン授業の効果や課題について整理し、新たな提案を試みることを目的とする。先行研究ではまだ追究されていない側面を明らかにすることで、今後求められる ICT を活用した表現教育の指導方法や内容に資すると考えるからである。

II. 表現科目のオンライン授業に関する先行研究

保育者養成系大学及び短期大学（部）での表現科目におけるオンライン授業の取り組みを探るため、CiNii の検索データベースから関係する論文を抽出した。

検索にあたっては、キーワードとして、【オンライン授業 OR 遠隔授業】AND【表現 OR 音楽 OR ピアノ OR 身体 OR ダンス OR 体育 OR 造形 OR 図画工作 OR 美術】を用いた。また、論文は、コロナ感染防止対策として全国的にオンライン授業が導入された2020年度以降に発表されたものとし、かつ保育者養成課程の授業に関するものに限って整理した。その結果、抽出されたのは35件であった（2021年10月28日現在）。

この35件の先行研究について、オンライン授業における実情と課題を整理し、同時に、それらの評価方法について述べていく。

1. 先行研究にみられるオンライン授業における実情と課題

先行研究にみられるオンライン授業における実情と課題を一覧にしたものが、表1である。

まず評価の基準としてもっとも多く挙げられていたのが、オンライン授業ならではの「人的環境に関する内容」についてである。オンライン授業は個人での受講が基本となり、他の学生からの影響を受けることがほとんどない。そのため、制作や創作活動では、対面授業時よりも個性的な作品が多く見られたことや（川口²、橋本³）、対面授業時のグループ創作活動では人任せにしてしまう学生もいたが、オンライン授業では一人一人が確実に創作し、達成感が得られていたこと（打越⁴）等をメリットとして挙げている。また、授業のまとめとして行われた対面での模擬保育発表では、オンライン授業期間中に学生が自主的に学びに取り組んだことで深まりが見られ、オンライン中心であったことが教員の想像を超えた積極的な学びに繋がったようだと言われている（山田⁵）。

一方で、学生も教員も制作過程の様子が見えないため、学生同士の刺激がないこと（児玉⁶）や、課題提出時まで進捗状況や学生の理解度を把握しにくいということが、樽井⁷や花田⁸ら、特に造形分野の研究の中で多数見られた。また、学生のなかには周りの様子が見えないために不安が募り、作品に対して「正解」を求めてしまう傾向にあるように感じていることも挙げられている（川口⁹）。

次に、挙げられているのが「物的環境に関する内容」である。オンライン授業は基本的に自宅での受講となるため、身近な道具や身の回りのものを活かした制作活動がしやすく（児玉¹⁰、花田¹¹）、幼児期の生活や遊びの環境を通じた経験にも繋がりがやすい、学生にとって深い学びになると考察している（橋本¹²）。

さらに、課題の提出方法や授業資料の提示方法に関する内容として、音楽分野において、オンデマンド型で模範演奏を配信したことが授業外学習の補助教具として有効であったこと（横山¹³）、また提出課題を演奏動画とすることで学生の練習量が増え、結果的に演奏の完成度が上がったことも報告されている（長澤¹⁴）。オンライン授業や ICT 活用ならではのメリットといえる。

その一方で、デバイスやアプリの性能上の問題

表1 表現科目のオンライン授業に関する先行研究

タイトル	著者	発行年	授業名	オンライン授業を通して見えた利点、効果等	オンライン授業を通して見えた課題、問題点等	アンケート、インタビューの有無 (授業評価アンケートは除く)	
1	保育者を目指す学生の『ピアノの弾き歌い』の指導法に関する研究(3)～オンライン授業における『ピアノの弾き歌い』の課題及び配慮すべき点についての一考察～	足立 広美	2021	授業のためのピアノ/演奏Ⅲ	—	・遠隔の見にくさや音の表情の伝わりにくさ ・Zoomは会議用に使用する分には性能を発揮するが、音を強制的に調整してしまう特徴から、音を介す授業には適さないことが考えられる	×
2	保育者養成のための造形関連科目における遠隔授業の実践報告	石川 秀香	2021	図工(幼)	【学生】 ・毎回作品に対するコメントをもらえてよかった ・自宅でも取り組めてよかった ・課題配信型の授業だったため、自主的に取り組む姿勢が身についた 【教員】 ・教室を物理的な空間と捉えると遠隔授業は脱教室という表現になるが、「教育」という行為が進行していく「場」として捉えると授業の可能性が広がる	【学生】 ・友達と一緒に学びたい気持ちもあった ・作品を友達と共有することができればよかった 【教員】 2/3の学生が孤立感を抱いていることが分かった	×
3	保育者養成におけるオンライン授業での創作活動「単元「幼児体操を創ろう」に関する実践報告(2)	打越みゆき	2021	保育内容の指導法「健康」	・対面時のグループ活動では創作ができる人に頼ってしまうことが見られたが、オンラインでは一人ひとりの活動になったため、一人一人が確実に創作し、達成感を得られていた	—	○
4	保育者養成校のピアノ指導における遠隔授業の実践と課題：2020年度「音楽実践Ⅱ」アンケート調査報告	大澤 里紗	2021	音楽実践Ⅱ	【学生】 ・集中できる ・いつでも演奏動画が見れる ・質問や相談がしやすい ・練習時間が増えた ・一人の空間で緊張せずにレッスンが受けられる	・特に強弱や音色についての確かなアドバイスをすることが難しく、基礎的な技術を身につけた中級者以上の学生への対応には工夫が必要 ・タイムラグにより一緒に歌ったり弾いたりすることができない ・学生の環境によっては、指使いや姿勢、手の形などが対面レッスンのように効率よく指導するのが難しい	○
5	子どもの歌のピアノ弾き歌い指導におけるオンラインレッスンの試み：コロナ禍の授業実践における成果と課題	葛西 健治	2021	音楽Ⅰ	【学生】 ・プライベートの保障 ・リラックス、集中できる環境 ・通学(時間)の節約 ・練習時間の確保 ・感染リスクの回避	【学生】 ・通信環境(状況)による影響 ・孤立感 ・音出し環境の確保 ・質問のしづかさ ・タイムラグ ・クラスメートの存在に対する葛藤、孤独感	○
6	表現形態の融合を目指した授業「領域表現」の可能性を探る：複数教員による遠隔授業における試み	川口 潤子他	2021	領域表現	・作品鑑賞のコメントは、対面授業で直接話すよりも、遠隔授業で文章で感じたことを書いて相手に伝える方が、細かな点まで伝えられる印象を受けた ・他の学生の影響を受けなかったことで、学生の個性がより発揮されたと感じた	・周りの様子が見えないため、不安が募り、作品に対して「正解」を求めた傾向にあるように感じた ・身体表現は、使用できる道具やスペースなどが制限されるため、工夫が必要 ・Wordによるレポート提出課題では、作品の画像データの貼り付けに苦戦する学生もあり、ICT教育の必要性を感じた	×
7	遠隔授業におけるピアノ指導法に関する一考察(創立30周年記念)	川田 将人他	2021	ピアノ/演奏法Ⅰ	【学生】 ・質問もでき、対面と変わらずレッスンを受けられた ・家で(遠隔)でレッスンを受けられるのは安心した(良かった)	【学生】 ・手元が映せないで指使いが不安だった ・わかりづらい時があった。言葉だけでは分からないこともあった	○
8	教員養成大学における音楽オンライン授業の実践	小林 田鶴子	2021	音楽・音楽科概説	・集中できる ・恥ずかしがない ・模擬授業では制約のある中で、さまざまな工夫が見られた ・オンデマンドは、時間に影響なく学習ができる ・学修履歴が残る	・通信状況	×
9	コロナ禍における保育者養成校での「表現」授業展開の考察：オペレッタ「かえるのどじまん」を通して	三枝 まり他	2021	音楽実践Ⅱ	【学生】 ・テーマやポイントが分かりやすく書いてあったり、手遊びなど、狭い空間でできる動きや動きのポイントは分かりやすい ・クラス状況に関わらず、予定通りに授業が進む ・集中して聞ける	・課題をこなすことが目的になっている ・表現が表面的、一面的になってしまう可能性がある ・オンライン授業は質問がしにくく、十分理解できないことがある ・オンライン授業では協同で行う演技について全体の動きや流れを総合的に把握することができない	○
10	オンライン授業による音楽演習の実践報告	高崎 展好	2021	音楽の理解	・授業スライド資料、事前課題学習、事後課題学習など各自学習に効果があったことで習得率向上につながっている	—	○
11	音楽表現系演習科目における遠隔授業のあり方を考える	橋 和代他	2021	うたと手遊び	①動画配信型の繰り返し視聴で理解度が上がる ②Web会議システムの活用は効果が高い ③対面とオンラインの融合で教育の質が高まる	・歌では声を同時に出せない	×
12	保育者養成校におけるオンラインシステムを活用したピアノ授業の実践報告	玉田 裕人他	2021	—	【学生】 ・画面越した話しやすかった/周りを気にせず練習できた/動画提出により練習量が増えた ・周囲を気にせず授業に参加できるため、学習意欲の向上が見られた ・触れ合い、見守り、気配り、思いやりなどの人間的な部分への指導は、対面授業が必要である点を改めて感じた 【教員】 ・安心して授業ができた/対面での指導の重要性や大切さを改めて実感できた/学生からの質問が増えた/欠席者が減った	【学生】 ・具体的な指示が理解できにくいことがあった/模範演奏が伝わりにくい/人前で演奏経験も積み重なった 【教員】 ・通信環境/手元がしっかりと見えなかった/自宅の環境、鍵盤楽器の問題/楽譜への書き込みが時間がかかった	×
13	保育者養成課程のピアノ教育におけるオンライン授業の客観的視点	富山 律子	2021	保育表現実践Ⅱ	・対面レッスンができない中でのオンラインレッスンは非常に有効 ・他者を意識し、対応する力を学んでいた。通常時より相手の意図を察知して、自分の状況を相手に伝えようとする意識が高まっている。自発的に説明しようとする積極性が見られた	・通信環境 ・自宅の環境 ・画面越しの不便さ ・タイムラグや音質の問題(対面に戻ったとき、タッチの弱さや座り方、姿勢が気になった。細かなニュアンスが伝わりにくい)	○
14	保育者養成における造形表現の遠隔授業の実践と課題	榎井 美波	2021	図画工作	・各自が好きなように時間をかけられる ・技法の理解や習得は、同時双方向型よりオンデマンド型の方が理解しやすい、繰り返し見られる ・オンライン授業では一人一人への声かけが全体に届き、受講生全員の気づきにつながる	【学生】 ・学生間での制作過程や様子を共有する時間や機会の難しさ ・学生間で完成した作品について共有する時間や機会の難しさ ・用具や場所を整えることが困難 【教員】 ・課題が提出されるまでの進捗状況や理解度が把握しにくい	○
15	演習科目「保育内容表現」における遠隔授業の一取り組みと考察	栗原 桂子	2021	保育内容「表現」	・何度も視聴可能で、授業外でも取り組める ・取り組み時間に柔軟性もたせられる ・周りからの刺激も時には必要であるが、一人で自分を振り返りながら取り組む環境も自分の意思をしっかりとついてもつ機会になっている	・学生の主体的な取組みを促す工夫 ・講義の動画作成における所要時間とスキル ・仲間とともに取り組むという声が多かったことから、グループ活動で作品をつくる場合は、双方同時型での授業展開を取り入れた方がよい	○

表現教育のオンライン授業に関する先行研究にみられる特徴と課題

タイトル	著者	発行年	授業名	オンライン授業を通して見えた利点、効果等	オンライン授業を通して見えた課題、問題点等	アンケート、インタビューの有無 (授業評価アンケートは除く)	
16	保育者養成校における領域「表現」の授業に関する考察：遠隔授業においてICTを活用した学生協働造形等演習事例	橋本聡子	2021	領域「表現」	①対面授業では扱えない素材を取り入れられる ②身近な道具・身の回りのものを活かせる ③他との程よい距離感の中で自己の表現をすることができる ④オンライン上の自由な時間の投稿ペースを活かせる オンライン上での強みを活かすことで、幼児期の生活や遊びの環境を通した経験にも繋が、深い学びができる	—	×
17	「造形」におけるオンライン授業の取り組みと指導法：実際と今後の学びのあり方	半田結	2021	造形A・造形B	・知識伝達型の学びには適している ・質問しやすい ・資料が見やすい、声が聞こえやすい	①微細な表現、サイズがとらえづらく、ものとしての実感に欠ける ②制作過程が見れない、結果だけに注視しやすい ③一般的なイメージに終始しがち ④仕上がりにばらつきがある ⑤絵やものを介したグループワークが不十分 ⑥学びにおける他者との関わりの重要性 ⑦一人で準備し、制作し、片づけることや困難や苦手意識 ⑧集中力の持続の困難さ ⑨新しい課題への動機付けの困難さ	×
18	非対面型授業における弾き歌い学習支援の成果と課題	扶藤 絵梨奈	2021	音楽Ⅰ	・どの学習過程においても学生自身が能動的に関わり、自己の認知活動や行動をコントロールしながら効果的に学習目標を達成していることとする自己調整学習の姿が見られた	・両手演奏(歌唱なし)から弾き歌いへの円滑な移行が難しい ・発声法や声楽的指導の指導が難しい	×
19	保育者養成校における保育内容「表現」のオンライン授業：Webコロナでの授業形態および教材の検討	松井典子 他	2021	総合表現Ⅰ	・コロナ禍でも学生が自宅でも主体的に実践及び体験することができている授業内容を構築できたこと	・即興的な要素をもつ音と身体を融合した表現は、その場その時の音を感じながら身体で表現したり、他者と表現を分かち合うことで、さまざまな感情や気付きが生まれるものである。対面での人の関わり、交流する学びは、保育者を目指す者にとって、必要不可欠である	×
20	オンライン授業の一考察：保育者養成校における音楽授業の実践	矢野 愛実	2021	音楽表現Ⅱ	【学生】 ・録画機能やスクショで見直しができる ・学校に行かなくても済む ・自分のペースで課題ができる 【教員】 ・オンデマンド教材は授業外時間以外も復習できていた ・オンデマンド教材は、表現の仕方や音色に対するイメージなど、対面時に近い形で提供できた	【学生】 ・通信状況の不安定さ ・授業においていじられる ・コミュニケーションがとりにくい 【教員】 ・オンライン授業での実践は可能であるものの、実技や技能面において、画面のみで保育の授業内容を理解し技能習得することは難しい	○
21	音楽教育におけるオンライン授業の可能性と課題：保育者養成の学生と教員を対象としたアンケート調査から	山内 信子	2021	音楽Ⅰ	【教員・学生】 ・コミュニケーションの取りやすさ/感染リスクの回避/移動不要 【学生】練習時間の確保/自分のペースで学べる/緊張せずに落ち着いて取り組める	【教員】教育効果は対面の方が高い/拍やリズムを体感させづらい/ペダルの響きが聴き取れない/生音を聴いてみないと本当の実力が分からない/デジタル音とペダル機能の不備による内容の乏しさ	○
22	保育内容「表現Ⅰ」における学生の学びと今後の課題について：オンライン授業での取り組みに着目して	山田 麻美子	2021	保育内容「表現Ⅰ」	・提出課題にも対する教員から学生へのコメント返信は、学生の自己肯定感を育んだ ・最後の4回は対面授業で行ったが、学生自身のこれまでの経験値から自主的な学びの深まりが多く見受けられ、オンライン中心の授業であったことが、教員の想像を超えた学生の積極的な学びに繋がった	・音楽、造形分野の動画配信、課題配信という形態は、学生のリアルな反応が分からないことが課題	×
23	双方型遠隔授業による造形表現の授業実践：ICT機器を活用した「子どものための創作絵本制作」の授業	山成 昭世	2021	幼児教育基礎 演習・教育学 講読	【学生】 ・身の回りのものを使った活動は、保育での活動にも生かされる ・効果音やアニメーション機能を使うことで、表現の幅が広がる ・ICT機器の活用方法が修得できる	—	×
24	保育者養成教育としてのピアノレッスンにおけるオンライン授業実践の考察	横山 真理 他	2021	音楽Ⅰ 音楽Ⅱ	・模範演奏の演示における視覚情報の方がやりやすさ ・歌唱行為を伴う弾き歌いの練習の実現 ・演奏動画における自発的な練習の足場としての役割の発揮 ・学修記録におけるコミュニケーションとフレクションを促す役割の発揮 ・コミュニケーションと思考を促進させる言語の役割の発揮	・タイムラグにより学生の歌唱演奏に合わせてピアノを弾いたり歌ったりすることは極めて難しい ・通信環境の状況によりレッスンの進行状況に影響が出る	×
25	実技系科目の遠隔授業における課題と可能性：保育内容・音楽表現Ⅰ、音楽Ⅰ、リズムの実践報告から	井本 英子	2020	保育内容・音楽表現Ⅰ 音楽Ⅰ リズム	・ユニバーサルバサボートで出席状況を把握できるなど、役立つ機能が揃っている	【学生】 ・分からないときに聞きにくい ・通信問題 ・所有する楽器の問題 ・家での受講環境の問題 【教員】 ・通信環境の問題、学生の所有する楽器の問題	○
26	保育内容「表現」におけるオンライン授業の検討と課題	小倉 隆一郎	2020	保育内容B(表現)	【教員】 ・リアルタイム形式と比較して、オンデマンド形式のコンテンツによる学生の理解は得られた	【学生】 ・PCや通信環境の影響による不具合 ・反応がなくて寂しい ・meetでは双方向のやりとりが難しい 【教員】 リアルタイム形式の演習では、十分な効果が得られなかった	○
27	造形表現におけるeラーニング教材について	児玉太一	2020	図画工作	・自宅にある物の組み合わせや角度などによって無制限にイメージが膨らませることができている	・制作中の学生同士での刺激が、オンラインではない	×
28	保育者養成校における次世代の美術授業について：動画配信を利用した美術演習遠隔授業の考察	杉森 映徳	2020	—	・獲得すべき一般的な学習内容をより集中力を持って学習する方法としては非常に効果がある	・客観的視点による課題の設定が困難 ・コミュニケーションをとりながら細かな指導をすることは難しい	○
29	オンラインによる音楽演習の学習効果：教員養成課程における個別指導(レッスン)を通して	館岡 真澄	2020	音楽Ⅰ	・対話をしながら指導するため、受講生の反応が確認できる ・受講生の疑問や質問にすぐに対応できる ・レッスン時間が定まっており、集中して指導できる ・提出動画は、受講生の演奏を何度も確認できる	・通信状態に注意を払わなければならない ・音や映像のずれの発生という、通信の特性上、指導者と受講生が同時に演奏したり、歌ったり、リズムうちを行ったりすることができない ・提出動画は、演奏録音録画の状況(音量、撮影角度)によっては、音やリズム、連拍、発音などの確認、判断が難しい	○
30	保育者養成における表現領域のオンライン化の授業デザイン：インプロ(即興演劇)の実践から得た学びを活かして	直井 玲子	2020	身体表現特別演習	・Zoomで遊びながらその機能を知って使いこなし、仲間と一緒に主体的に授業に取り組み、授業後半で実施した「模擬保育」の保育デザインへとつながることができていた	—	×

タイトル	著者	発行年	授業名	オンライン授業を通して見えた利点、効果等	オンライン授業を通して見えた課題、問題点等	アンケート、インタビューの有無 (授業評価アンケートは除く)
31	オンライン授業におけるピアノレッスンの特徴と可能性 長澤 順 他	2020	音楽Ⅲ・音楽Ⅳ	・演奏の完成度の高さ ・レッスン時間の確保 ・練習量の増加(投稿のために何度も撮り直した等) ・学びやすさ ・緊張感の軽減 ・感染予防	・通信環境 ・意思疎通の困難さ ・音ずれ、タイムラグ ・心理的負担(うまく弾けるまで何度も撮り直す必要有) ・レッスンの質(対面と比べるとしっかりとした指導が受けられない)	○
32	図画工作オンライン授業実践報告 花田千絵	2020	図画工作Ⅲ	・家のものを使うことで多種多様さが生まれた オンラインでの提出課題について ①提出、管理が効率的 ②記録としての機能 ③受講者同士が参照し合うことで自己の学びに反映させることが可能	・課題提出時まで作品の様子を確認できない	×
33	リモートによる音楽科演習の一考察 —Zoomを使った音楽の学修と評価— 日高 まり子	2020	音楽関係9科目	【学生】 ・機器の操作スキルが習得できた ・オンラインになったことより、教材作成の創意工夫ができた ・視聴覚教材の提供によって理解度の向上が感じられた ・一人の空間で学べ、恥ずかしくなく身体表現活動ができた	【学生】 ・音や音楽の直接的な響きの体験的な学習ができないことで感性的な理解が深まらない ・音や音楽での触れ合いや関わり合いが難しく、孤独感や寂しさ等を感じる 【教員】 ・通信環境が指導内容に影響した ・グループ活動ができなかった ・学生の探求プロセスが見えにくい	×
34	保育者養成校における保育表現演習授業の教育効果に関する一考察 ：遠隔授業における学生のレポート課題を通して 増井 啓子	2020	保育表現演習Ⅰ	・遠隔授業でじっくり一人で考える時間と対面授業で周りに刺激を受けながら個々で考えたことを発展させた時間の両方を体験したことにより、表現活動をするときの環境の重要性に気づくことができていた	・対面授業が開始された以降は、学生が表情豊かに生き生きと表現する姿を見て、対面で互いに姿を見合うことしているような表現方法に気づき、認め、人や物、自然に親しみ関わりが生まれてくると実感した	×
35	音楽実技科目の遠隔授業(オンライン)における課題と授業デザインの検討(教育の情報化/一般) 山下真由美	2020	—	【学生】 ・音楽理論は、講義形式であるため理解できた ・通常では、先生の手元が見えなかったがオンライン授業では、よく見えた。通常授業よりも分かりやすい面もあった ・音と映像はずれがオンラインでもレッスンはできると思った 【教員】 ・音や映像のスレは事前に作成した映像をオンライン授業時に使用することで、リアルタイム配信でのスレが解消できる ・チャット等による質問等で、応答的・主体的授業への参加に結びついた	—	○

が多数の先行研究で取り上げられている。例えば、大澤¹⁵⁾は、タイムラグにより一緒に歌ったり弾いたりすることができないこと、強弱や音色は生音のように聴こえず、中級者以上の学生への対応には工夫が必要であったこと等を挙げている。また、学生のレポートには、音や音楽の直接的な響きの体験的な学習ができないことで感性的な理解が深まらないことや、音や音楽での触れ合いや関わり合いが難しく、孤独感や寂しさ等を感じると書かれていたものがあると述べている(日高¹⁶⁾)。

以上、表現科目におけるオンライン授業のメリットや課題を挙げたが、これらは分野や活動内容によってそれぞれ異なっていることが分かる。

オンライン授業は、原則、一人で、それぞれの場所を受講するスタイルである。一人で学ぶことは自分のペースで学修を進めることができるため、繰り返し学んだり、納得がいくまで取り組んだりすることで、積極的に主体的な学びとなる。その結果、個性的な表現や完成度の高い表現、達成感へと結びつくということが、音楽・身体表現・造形のいずれの分野でも見られた。その一方で、

他者との関わりがなく一人であることに、不安や孤独、ストレスを感じてしまう場合もあることが指摘されている。

また、多くは自宅と考えられるが、それぞれの場所を受講するという点について、特に造形分野では、生活に密着した身近な道具やものを活かすことができ、生活から生まれる造形という学びにつながると評価されている。その一方で、日々の生活空間を受講することは、気分の切り替えが難しかったり、身体を動かしたり声や音を出したりする場所に制限があるということも言えるだろう。先行研究には身体表現に関するものがほとんど見られなかったが、自由に動けるような場所が、どれほど自宅にあるだろうか。

さらに、オンライン授業は、当然のことながらPCなどのデバイスを通じた学びであり、直接的な体験とは異なる。そのため、特に音楽分野では、音や音楽の直接的な体験が十分ではないことが指摘されている。音が耳だけで聞くものではないことはもとより、色や形もまた眼だけで見るわけではない。オンラインによって、身体性が排除されることで手軽になったり、場の雰囲気がなくなっ

たりすることに利点もあるとはいえ、「感じる」という体験を重視する表現教育には、まずもって直接的な体験が不可欠であろう。

2020年度当初、各大学ではオンライン授業の実施が余儀なくされた。音や人、ものを介することが中心とされる表現科目には、これまでの発想を大きく転換し、様々に工夫する必要が生じた。分析対象となったどの先行研究からも、対面授業で予定していた内容をいかにオンラインで実現できるかどうか試行錯誤した様子が見えがえる。そして、実践する中で得られたオンライン授業のメリットや課題が示され、ほとんどすべての先行研究において、今後も対面授業内でオンラインでの指導方法や教材を活用していきたい、もしくはハイブリッドでの指導を検討していきたいという意向が示されている。

新しい教職課程の表現領域では、幼児が多様な表現を修得できるよう、音楽、造形、身体表現等の表現に関する内容が総合的に取り扱われることが求められているが、今一度、それぞれの表現分野の特徴とオンライン授業の有効性を整理しておく必要があるだろう。

2. 先行研究に見られるオンライン授業の検証方法

ここでは、抽出した先行研究において、オンライン授業による教育効果がどのように検証されたのかを整理する。

まず、オンライン授業と体験授業を比較して受講者にアンケート調査を実施しているものである。大澤¹⁷は、2回生を対象とした15回のピアノ授業をオンラインで実施した後、学生にアンケート調査を行っている。アンケート調査では、コロナ前の1年次に受講した音楽関係の授業と比較しながら、オンライン授業のよかった点や困った点、対面とオンライン授業のメリットやデメリットを尋ねている。また、樽井¹⁸は、15回の授業のうち前半がオンライン授業、後半が対面授業となった「図画工作」の授業について、受講生にアンケート調査を実施している。その他、日高¹⁹は、アンケート調査ではなく、レポート課題の中で「オンラインの音楽の発表における効果と課題」や「直接表

現とリモート表現の音や動きについての違い」を論じさせ、学生の学修成果等を考察している。

一方、オンライン授業のみを実施した後に、理解度やオンライン授業のメリット及びデメリットを尋ねている調査も多い。その他、学生の授業態度や授業作品、授業の感想や授業評価アンケートを通して、オンライン授業について考察しているものもみられる。

次に、アンケートで何を聞いているのかという質問内容についてである。多くの調査において、授業の理解度や満足度、教材の分かりやすさ、コミュニケーションの取りやすさ、学修環境や通信環境について、またオンライン授業と対面授業の利点や問題点、オンライン授業と対面授業のどちらを望むか等が尋ねられている。

ただ、質問内容の多くが一般的な質問であり、表現科目以外のアンケート調査としても置き換えることができる内容でもある。唯一、樽井²⁰が、科目の学修到達目標と、授業を通して学生に経験してほしい五領域に即した学びを挙げ、それぞれの観点について、対面授業とオンライン授業のどちらが学びやすく感じたかという質問を設定している。保育者養成における表現教育には、知識の理解度、技能の修得状況、最終的な学修成果、効率性だけでなく、学修過程での気づき、感性や想像力、創造力、表現力、他者との関わり方等がより重要であると考えられる。そのように考えると、表現科目ならではの質問内容が求められるだろう。

以上、抽出した先行研究を2つの視点から整理した。その結果、まず各分野や活動内容によって、オンライン授業の実情と課題がそれぞれ異なることが明らかとなった。また、検証するには表現科目ならではの質問項目が求められること、さらに表現教育特有の学びの保証が求められること、またオンラインでの総合的な表現教育に関する研究が今後求められることが示唆された。

各養成校により授業編成や教員配置等の状況は様々であり、また現在多くの養成校が新教職課程への移行段階であるなか、急速オンライン授業を

表2 筆者らが設定した表現教育におけるアンケートの質問項目

	感覚・感性	イメージ・創造性	表現力
自分	①新たな気付きや発見があった	⑥自分なりにイメージを膨らませることができた	⑪自分なりに表現することができた
	②感覚や感性を磨くことができた	⑦自分なりに新しいアイデアを生み出すことができた	⑫表現することの喜びや楽しさを感じることができた
他者	③他者の表現に共感することがあった	⑧他者によってアイデアが浮かんだ	⑬他者に自分の表現が伝わる喜びや楽しさを感じることができた
	④恥ずかしく感じるがあった	⑨他者から刺激を受け、創作意欲が高まった	⑭他者がいる中で表現したり、発表したりすることに戸惑うことがあった
環境	⑤自分の感覚に集中できる環境があった	⑩イメージを膨らませる環境があった	⑮表現しやすい環境であった

実施しなければならなくなったため、オンラインでの総合的な表現教育に関する研究は多くはない(川口²¹、松井²²)。しかし、今後、新教職課程が求める総合的な表現教育を考えていくにあたり、音楽、身体表現、造形分野の教員が共に表現教育の可能性を検討していくことは必須である。

Ⅲ. 表現科目におけるオンライン授業の検証方法の試案

前章での先行研究の整理で得られた知見の一つが、表現科目におけるオンライン授業の効果や課題を明らかにするためには、表現教育に即したアンケートの質問項目が求められるということである。

そこで、筆者らは「幼稚園教育要領」及び「保育所保育指針」の領域「表現」のねらいや内容を基に、表現教育に関する独自のアンケート項目を作成することにした。今後、新教職課程が求める総合的な表現教育を検討していくにあたり、音楽、身体表現、造形の共通の視点から対面授業とオンライン授業の比較をすることは、各分野の特徴と課題をより一層顕在化させ、さらには新たな表現教育の可能性を探ることにつながるのではないかと考えたからである。これは先行研究では見られなかった新しい視点であるともいえる。そのうえで、音楽教育、身体表現、造形教育を専門とする筆者らが担当する授業の中で、表現教育特有の同一の質問項目を用いたアンケート調査の実施を検

討することにした。

ここでは、表現教育特有のアンケートの質問項目の設定について述べることにする。

まず、領域「表現」^{23、24}において重要視されている力を「感覚・感性」「イメージ・創造性」「表現力」の3つに集約した。また、一方で人的・物的環境を表すカテゴリーとして、3つのカテゴリー「自分」「他者」「環境」を設定した。そして、3つの力とカテゴリーに基づいて、表2のように、全15項目の質問項目を考案した。その際、音楽教育、造形教育、身体表現を専門とする筆者らが担当する授業の中で、同一の質問項目のまま用いることができるよう共通で使える文言を選択した。

また、表現教育に即した設問以外で、授業全般に求められる学びの姿勢及び知識や技術の習得といった内容に関する質問を表3のように、6項目、設定した。

表3 学びの姿勢及び知識や技術の習得に関する項目

- ・授業に意欲的に取り組むことができた
- ・自分なりに集中して授業に臨むことができた
- ・学生同士の会話で意欲が高まった
- ・教員との会話で意欲が高まった
- ・知識を習得することができた
- ・表現技術を習得することができた

それぞれの分野でこのアンケートを実施することは、表現科目におけるオンライン授業と対面授

業の違いを学生はどのように捉えているのかについての検証となるだろう。さらには表現科目間で比較することで、共通点や相違点を見出すことができるはずである。ひいては、表現教育特有の特徴や課題を明らかにすることにつながるのではないかと考えられる。

IV. 終わりに——まとめと今後の課題

オンライン授業という新たな手法を手に入れることで、これまで当たり前のように行ってきた対面授業に対して、発想の転換を求められることとなった。特に表現に関わる科目は、身体や道具を用いた実技の要素が大きく、それらをいかにオンラインで実践していくかということについて多く、論じられている。

これらの先行研究からは、次のようなことが明らかになった。対面授業とオンラインを比較する場合に表現科目ならではの質問項目を用いた研究が極めて少ないこと、オンラインでの表現教育特有の学びの保証についての言及が必ずしも多くはないこと、さらには新教職課程が求めるオンラインでの総合的な表現教育に関する研究もまた極めて少ないこと、の3点である。

今後は、今回試案として提出した表現科目特有の質問項目によるアンケート調査をそれぞれの分野で実施し、各分野の特徴や課題を示すとともに、表現教育の教育内容や指導方法のあり方を模索していきたい。そのことが、総合的な表現教育についての研究を進めることにも結びつくであろう。引き続き、音楽、身体表現、造形分野の教員が共に表現教育の可能性を検討していきたいと考える。

〈引用文献〉

- 1 半田結・井上朋子・永井夕起子「これからの表現教育の検討—音楽・身体表現・造形の視点から」『兵庫大学短期大学部研究集録』第56号、pp.1-12、2021
- 2 川口潤子・土橋久美子・石沢順子 他「表現形態の融合を目指した授業『領域表現』の可能性を探る：複数教員による遠隔授業における試み」『保育・教育の実践と研究：初等教育学科紀要』第6号、pp.9-18、2021
- 3 橋本聡子「保育者養成校における領域『表現』の授業に関する考察：遠隔授業においてICTを活用した学生協働造形等演習事例」『淑徳大学短期大学部研究紀要』第63号、pp.67-75、2021
- 4 打越みゆき「保育者養成におけるオンライン授業での創作活動：単元『幼児体操を創ろう』に関する実践報告(2)」『星美学園短期大学研究論叢』第53号、pp.18-34、2021
- 5 山田麻美子「保育内容『表現Ⅰ』における学生の学びと今後の課題について：オンライン授業での取り組みに着目して」『有明教育芸術短期大学紀要』第12号、pp.29-42、2021
- 6 児玉太一「造形表現におけるeラーニング教材について」『山陽論叢』第27号、pp.181-188、2020
- 7 樽井美波「保育者養成における造形表現の遠隔授業の実践と課題」『清泉女学院短期大学研究紀要』第39号、pp.31-42、2020
- 8 花田千絵「図画工作オンライン授業実践報告」『作新学院大学女子短期大学部研究紀要』第4号、pp.19-24、2020
- 9 川口、前掲書、pp.9-18、2021
- 10 児玉、前掲書、pp.181-188、2020
- 11 花田、前掲書、pp.19-24、2020
- 12 橋本、前掲書、pp.67-75、2021。ここでは、小麦粉粘土など、アレルギーをもつ学生がいた場合、対面授業では使えなかった素材が扱いやすいことも挙げられている。
- 13 横山真理・酒井国作・藤原一子 他「保育者養成教育としてのピアノレッスンにおけるオンライン授業実践の省察」『東海学園大学教育研究紀要』第5号、pp.99-114、2021
- 14 長澤順・井上修「オンライン授業におけるピアノレッスンの特徴と可能性」『作新学院大学女子短期大学部研究紀要』第4号、pp.35-41、2020
- 15 大澤里紗「保育者養成校のピアノ指導における遠隔授業の実践と課題：2020年度『音楽実技

- Ⅱ』アンケート調査報告』『こども教育宝仙大学紀要』第12号、pp.71-77、2021
- 16 日高まり子「リモートによる音楽科演習の一考察 ―Zoomを使った音楽の学修と評価―」『宮崎国際大学教育学部紀要 教育科学論集』第7号、pp.90-100、2020
- 17 大澤、前掲書、pp.71-77、2021
- 18 樽井、前掲書、pp.31-42、2020
- 19 日高、前掲書、pp.90-100、2020
- 20 樽井、前掲書、pp.31-42、2020。質問内容として次の項目が挙げられている。①造形表現の技法の理解や習得②積極的に授業に取り組む③様々な表現のしかたや考え方に気が付く④制作のための用具・場所を整える⑤考えたことや感じたことを伝え合う⑥描いたり作ったりすることを楽しむ⑦発想力・想像力を豊かにする
- 21 川口、前掲書、pp.9-18、2021
- 22 松井典子・高橋仁美「保育者養成校における保育内容「表現」のオンライン授業：With コロナでの授業形態および教材の検討」『滋賀短期大学研究紀要』第46号、pp.101-109、2021
- 23 「幼稚園教育要領」文部科学省、2017
- 24 「保育所保育指針」厚生労働省、2017

